クォータリーレポート

気仙沼・本吉だより

第9号　平成22年8月
発行：気仙沼地方振興事務所

最新統計

人口の推移　（単位：人）

市町名	平成17年10月1日	平成22年4月末	平成22年5月末	平成22年6月末
気仙沼市	78,011	74,849	74,750	74,711
南三陸町	18,645	17,780	17,742	17,735
合計	96,656	92,629	92,492	92,446
前月比	－	99.88%	99.85%	99.95%

世帯数の推移　（単位：世帯数）

市町名	平成17年10月1日	平成22年4月末	平成22年5月末	平成22年6月末
気仙沼市	25,510	26,676	26,671	26,688
南三陸町	5,335	5,367	5,370	5,367
合計	30,845	32,043	32,041	32,055

※平成21年9月1日に気仙沼市と本吉町は，合併しました。

気仙沼魚市場水揚げ実績　（数量：トン，金額：千円）

	平成22年（7月）		前年同期比	
漁業別	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	1,453	250,129	▲430	▲86,240
鰹一本釣	8,871	1,558,598	4,580	507,208
秋刀魚棒受網	-	-	-	-
近海大目流網	701	169,965	▲218	▲63,311
旋網	4,666	1,175,859	1,814	30,026
定置網	963	61,217	▲17	▲10,570
船凍鮪延縄	17	1,139	8	591
冷凍いか釣	-	-	-	-
曳網・抄網	-	-	-	-
搬入	174	162,118	▲29	▲24,819
その他	139	83,681	10	1,807
合計	16,984	3,462,697	5,718	354,692

7月中旬から漁模様が好転したカツオ漁がマグロ延縄や大目流し網などの不振をカバーし，前年実績を上回った。

「気仙沼市主任児童委員との業務連絡会」の開催

（東部児童相談所気仙沼支所家庭支援班）

平成22年6月24日（木），気仙沼保健福祉事務所を会場に，旭が丘学園児童家庭支援センターの主催による「気仙沼市主任児童委員との業務連絡会」が開催されました。

主任児童委員とは，民生・児童委員の中で児童福祉に関することを専門的に担当する方々で，児童福祉関係機関・団体，教育機関などとの連絡・調整や，民生・児童委員への援助・協力などの活動を通して，子どもたちの健全育成や児童福祉の推進に努めています。

（会議の様子）

当日は，気仙沼市内の主任児童委員17名のほか，市福祉事務所，市社会福祉協議会の担当者なども参加し，当所から「社会的養護としての里親制度の現状と課題」について説明後，日頃の地域活動の紹介や疑問点など活発な意見交換がなされました。

気仙沼市においても児童虐待の件数は増加傾向にあり，育児不安を抱えながら子育てをしている保護者が多くいます。地域のなかで気軽に相談できる主任児童委員の存在は，今後ますます重要になってくると思われます。

地域リハビリテーション従事者研修会（食事介護・支援）の開催

（気仙沼保健福祉事務所地域保健福祉部成人・高齢班）

気仙沼保健福祉事務所において，6月29日（火），「食事介護・支援」をテーマに日本歯科大学附属病院の菊谷先生を講師に迎え，地域リハビリテーション従事者研修会を実施しました。

講演は「食環境整備の重要性～口腔ケアと摂食・嚥下機能の評価～」と題して，利用者が施設などを移動しても情報を共有し，切れ目のない食支援が必

要なことや，口が開くから食べられるわけではないこと，介助の時の観察のポイント，誤嚥の起こる仕組みなどを映像を交えてお話しいただきました。

参加者からのアンケートでは，「分かりやすく説明してもらった」，「目からウロコが落ちた」などの記載があり大変好評でした。

第2回の研修会は9月14日（火）に「食事ケアにおけるチームアプローチの必要性～摂食・嚥下場面での窒息事故を予防するためには～」と題して開催する予定です。

（研修会の様子）

薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーンの開催

（気仙沼保健福祉事務所環境衛生部食品薬事班）

麻薬・覚せい剤・大麻・シンナー等の薬物乱用問題は，人の生命はもとより，社会や国の安全を脅かすなど，深刻な社会問題のひとつになっています。そのため，2009年3月に国連麻薬委員会では「新国連薬物乱用根絶宣言」を採択して，2019年までに薬物乱用の根絶を目指すことになりました。

その活動を支援するため，6月20日（日）から7月19日（月）まで全国で官民挙げて薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が展開されており，本県においても，薬物乱用防止啓発活動や国連支援募金活動等を実施することとなりました。

当所では，7月20日（火）に気仙沼地区薬物乱用防止指導員を中心に，気仙沼高等学校，気仙沼警察署等の協力を得て，イオンリテール（株）ジャスコ気仙沼店において，「薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン」を開催しました。来店された市民の皆様に，薬物乱用防止啓発品を配布しながら，薬物乱用防止の重要性を訴えました。また，活動支援のための募

（街灯キャンペーンの様子）

金を呼びかけたところ，1万円を超す善意が寄せられました。ご協力に改めて感謝しますとともにお礼申し上げます。

今後も引き続き，薬物乱用のない，明るく健康的で住みよい地域づくりのために，啓発活動を一層推進することとしていますので，県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

「中山間農業は宝の山だ！」
気仙沼・本吉地域農業農村活性化セミナーの開催

（本吉農業改良普及センター）

7月7日（水），気仙沼市本吉公民館を会場にして，気仙沼・本吉地域農業農村活性化セミナーを開催しました。本吉普及センター管内と同様に中山間地域である大崎市岩出山で，地域コミュニティビジネスに取り組んでいる「あ・ら・伊達な道の駅」前代表取締役の佐藤仁一氏に講演していただきました。

「あ・ら・伊達な道の駅」の直売事業や，高齢者による竹細工工房などの取り組み事例が紹介され，「地域にないものを作り出すより，地域にある人材や資源を活かすことが重要」，「女性や高齢者の力を引き出し，活躍する場を提供する」等，中山間地域で抱える課題をビジネスに変えていく考え方に，セミナー参加者も大いに関心を寄

（セミナーの様子）

せていました。質疑応答では，参加者からの「担い手不足の解決策は？」との質問に，「農業の魅力をどう付加していくかが今後の課題である。定年退職者を新規就農者の一つのステージとして考えれば，遊休農地の活用も見えてくるのでは。」との回答があり，今後の中山間地農業の活性化に向けた取り組みへの参考となりました。

今後とも，普及センターでは，気仙沼･南三陸地域ならではの地域活性化を目指して，支援していきます。

「JA南三陸春告げやさい」の生産拡大を目指す

(本吉農業改良普及センター)

平成22年6月22日(火)と23日(水)に，「JA南三陸春告げやさい新規栽培者養成講座」を開催しました。「JA南三陸春告げやさい」は，平成16年より関係機関が一体となり，12月から2月の厳冬期に出荷する葉茎菜類を「地域ブランド」として育成を行ってきたものです。主な品目は「ほうれんそう」や，「なばな」などで現在は7品目が栽培されています。

しかし，近年では農業者の高齢化等で生産量が少なくなってきており，市場の需要に応えられない状態となってきています。

そこで，本吉農業改良普及センターでは，南三陸農業協同組合と連携し，新規に取り組む農業者の掘り起こしを行い，春告げやさいの産地の維持と推進を図るため，今回の講習会を開催しました。講座は2会場で1日ずつ行い，両会場で合わせて20名程度の参加でした。

第1回目は土づくりや農薬の使い方など基礎的な内容を普及センター職員が説明しました。

この講座は7月と8月にも1回ずつ開催し，次回以降は実際の栽培品目における，栽培講習会を開催する予定です。

(春告げやさい)

南三陸町童子下集落で「田んぼの生き物調査観察会」が行われる

(本吉農業改良普及センター)

7月9日(金)，南三陸町童子下集落の水田で，入谷小学校の3･4年生たちが「田んぼの生き物調査観察会」に参加しました。

この観察会は南三陸農業協同組合と地区住民が企画し，普及センターが協力して行ったもので，「南三陸米」を生産する水田の環境について子供たちに知ってもらうのが目的です。

当日は，子供たちが主催者から説明を受けた後，手網を持って水田のあぜ道を歩き，トンボやバッタなどの昆虫や，オタマジャクシやヤゴ，イモリなど水中の生き物をすくい取っては観察しました。観察記録票には20種類以上にチェックを入れた子もいて，普段遠くから見ている水田に，予想以上に多くの生き物がいることに驚いていました。

(観察会の様子)

その後子どもたちは集落の集会所に移動し，観察の結果について普及指導員の説明を聞いたのち，集落の女性らが用意したおにぎりをほおばって，お腹と知的好奇心の両方が満たされた様子でした。

大豆300A技術導入で品質･収量の向上を目指す

(本吉農業改良普及センター)

気仙沼市階上･大谷地区ではブロックローテーション方式による転作大豆栽培が行われてきましたが，圃場条件等の理由で収量や品質が安定せずその対策が課題となっていました。

本年度，自給力向上戦略的作物等緊急需要拡大事業により大豆栽培の新技術(大豆300A技術)普及展示に対し，国から支援が行われることになりました。これを受けて5月17日(月)に階上･大谷の両生産組合，普及センターを始めとした関係機関が打合せを実施し，事業の内容や取り組む技術，実証ほの

規模等について協議しました。その結果，階上生産組合では耕耘同時畝立て播種に，大谷アグリクラブでは無培土狭畦栽培にそれぞれ取り組むこととなりました。

播種作業は6月13日（日）から始まりましたが両生産組合は，生育量の確保による収量安定と省力化による生産性の向上が実現するものと大いに期待しています。普及センターでは技術と経営の両面から大豆300A技術の定着に向けて継続的に支援していきます。

（播種作業の様子）

「そば」を活用した農家レストランのメニュー開発

（気仙沼地方振興事務所農林振興部農業振興班）

気仙沼市八瀬地区では，遊休農地を再生し栽培したそばを活かした地域おこしとして，国登録有形文化財になっている旧月立小学校校舎を利用し手打ちそばをふるまう「学校そば」を月1回開催しています。この「学校そば」を今後も継続して運営するために，メニューの多様化や短時間で多くの食事を提供するための工夫が必要となっています。

このため，みやぎグリーン・ツーリズムアドバイザー派遣事業を活用し，フードコーディネーターの早坂具美子先生を講師として平成22年6月27日（日）に学習会を実施しました。

学習会のテーマである「そば料理3種」について，早坂先生から説明を受け料理実習を行いました。一品目は「そばの黒和え・白和え」。きりそばを作る際に出る余った部分で作ることができるエコメニューでお酒の肴にぴったり。二品目は「かつおそば」。里のそばと海のかつおがコラボした気仙沼ならではのメニューです。見た目も美しく，かつおとそばをいっしょにいただくと大変おいしく，目玉メニューになるとの声も聞かれました。三品目は「そば粉のガレット」。フランス・ブルターニュ地方の郷土料理で，薄く焼いたそば粉の上に，卵，ベーコン等の具材をのせ，四方を織り込んだものです。具材のうまみで食べごたえがありますが，後味はすっきりしています。

実習後は参加者全員で試食しながら，早坂先生から地域の特産物を活かした地域おこしの事例についてお話をいただきました。参加者からは，「ちょっとした工夫でそば料理のバリエーションが増えて驚いた」という感想や，「かつおそばをぶっかけ風にしてみたらどうか」等のアイデアが出されました。次回は秋に開催予定です。

（メニュー開発の様子）

マリンチャレンジスクールの開講

（気仙沼地方振興事務所水産漁港部水産振興班）

7月29（木）～30日（金）に，宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所や気仙沼向洋高校等を会場として，管内3中学校から7名の中学3年生が参加し，「マリンチャレンジスクール」を開講しました。本スクールは，管内中学生（2～3年生）を対象に，本県における水産業に関する初歩的な知識（漁獲～水揚～加工利用），漁業の動きなどを講習し，水産業への理解と関心を深めることを目的としており，本地域の基幹産業である水産業に直に触れる機会でもあります。

1日目は，気仙沼市魚市場見学，水産加工場見学（気仙沼ほてい（株））を行うとともに，本県水産業の概要を勉強し，また，漁業士から「海での仕事について」と題した講演を聴きました。市場では水揚げされたメカジキ，サメを目の前にして，怖々触ってみたり，

水産加工場見学では缶詰やレトルト食品の製造工程等，普段見たことのない水産加工場の内部をじっくりと見学しました。漁業士の方からは，「一日の漁業作業」や「海の魅力」について漁業者の視線から分かりやすく説明して頂き，先の津波被害や復旧作業等についての話もあり，熱心に聞き入る姿が見られました。

2日目は，気仙沼向洋高校を会場として，向洋高校の説明，実習船「シーラス」の乗船体験，ロープワーク教室等を行いました。あいにくの雨模様の天気ではありましたが，気仙沼湾をクルージングすると，「普段は見られない海から陸を見ておもしろかった」などの感想が聞かれました。ロープワークでは四苦八苦しながら基本的な結び方を教わりました。

中学3年生の夏ということもあり，将来の進路を決める一助となることを願うとともに，水産業に興味を持ち，宮城の水産サポーターとなることを期待しています。

ロープワーク教室（うまく結べるかな？）

水産加工場の見学の様子

（衛生面に気をつけて白衣着用）

「富県宮城推進気仙沼・南三陸地域懇談会」の開催

（気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班）

平成22年8月6日（金），富県宮城推進気仙沼・南三陸地域懇談会が気仙沼合同庁舎で開催され，気仙沼市長，南三陸町長，気仙沼商工会議所会頭等の地元産業界の代表者12人が出席し，宮城知事及び気仙沼地方振興事務所長と意見交換を行いました。

気仙沼管内は，水産業と観光が主な基幹産業となっていますが，遠洋漁業の規制やマグロ船の減船，漁獲高の減少といった水産業を中心とした地域経済の衰退を払拭するため，新たな地域振興策が必要になっているところです。

（懇談会の様子）

そこで今回の懇談会では，多くの産業に経済波及効果をもたらす“すそ野が広い観光産業”と農林水産業との関わりについて，それぞれの産業の視点から話し合うことにしました。

出席者から，観光振興と深く関係する三陸道の重要性や食材を活かした地域振興に向けた取り組み，食の安全・安心への取り組み等が紹介され，また，県への要望などの意見が出されました。

この懇談会を契機として，富県宮城の実現に向けた各産業界同士の連携がより一層強化されることを期待します。

（意見交換の様子）

「サラ貝＆ふか肉料理の講習会」の開催
～地元食材を利用したレシピに挑戦～

（気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班）

エレクック友の会木曜班（料理サークル）主催によるアカザラガイ（サラ貝）及びモウカサメ肉（ふか肉）を用いた料理講習会が，平成22年7月8日（木）に東北電力（株）気仙沼出張所の調理室で開催されました。

講習会には15人が参加し，「サラ貝ごはん」や「ふか肉甘酢あんかけ旬の野菜入り酢豚風」，「ふか入りつみれ汁」などの料理に挑戦しました。参加者からは，アカザラガイについては「ホタテより味が濃く，美味しい」，「生で販売しているのは見たことない」，ふか肉については「思ったよりも臭みがなく，柔らかくて美味しい」という意見が出され，大変好評でした。今後，アカザラガイやふか肉といった地元食材を地域の婦人会等で紹介していきたいとのことでした。

（料理講習会の様子）

気仙沼地方振興事務所では，アカザラガイやふか肉など地元産でありながら見過ごされてきた食材や新たに産地化を目指している食材をPRし，その認知度を高めながら，地産地消を目指しております。また，地元飲食店や気仙沼市食生活改善推進連絡協議会などのご協力を頂きながら，これまで試作してきた地元食材を利用したメニューを一般家庭向けのレシピ集として作成しています。“気仙沼ならでは”のレシピ集を，是非，ご利用ください。

（料理講習会の様子）

「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」の開催

（気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班）

平成22年6月29日（月），岩手県一関市において“岩手・宮城県際広域観光推進研究会”の初会合が開催され，気仙沼・南三陸地域，栗原地域，登米地域，一関・平泉・藤沢地域及び大船渡地域の観光関係者19人が出席しました。

この研究会は，岩手県県南広域振興局の呼びかけにより設置されたもので，県際地域の優れた地域資源を活かしながら広域的な観光振興を図っていくことを目的とし，岩手県と宮城県との県際付近に位置する10市町の自治体，観光団体及び県地方公所の実務担当者で構成されています。

今回の研究会では，「各地域の平成22年度観光振興施策等の状況について」，「平泉文化の世界遺産登録に係る機運醸成と県内波及について」，「三陸自動車道の延伸に対応した施策等について」などの説明や研究会の進め方について意見交換が行われました。今後，世界遺産登録を目指す「平泉の文化遺産」を活用しながら，観光客誘致に向けたアクションプランを策定する予定となっています。

（懇談会の様子）

県際地域の観光関係者が参画することにより，広域的な人材ネットワークの形成及び地域間連携が促進され，地域の新たな展開を生み出す契機となることが期待されます。

構成機関

（宮城県）

栗原市，栗原市観光物産協会，栗原地域事務所，登米市，登米市観光物産協会，県登米地域事務所，気仙沼市，南三陸町，県気仙沼地方振興事務所

（岩手県）

一関市，一関観光協会，平泉町，藤沢町，県南広域振興局，大船渡市，大船渡観光物産協会，陸前高

田市，住田町，沿岸広域振興局（大船渡地域振興センター）

気仙沼地方振興事務所スタッフ・ブログの開設

（気仙沼地方振興事務所地方振興部商工・振興班）

このたび，気仙沼地方振興事務所の職員（スタッフ）が，仕事やプライベートで知り得たグルメ情報などの地域情報等を“地元密着情報”として紹介するスタッフ・ブログを開設しましたので，お知らせします。

地元住民が気付かなかった情報や圏域外の人たちが足を運びたくなる情報を草の根的に発信することにより，地域活性化及び観光客誘致の一助となればと考えております。

【ブログ・タイトル】
南三陸＆気仙沼を体感！“来て見て浜ライン”
↓ ↓ ↓
http://blog.goo.ne.jp/akazara_boy/

省エネ・省力型近海まぐろ延縄漁船 第七勝漁丸が竣工・初出航

（気仙沼地方振興事務所水産漁港部漁業調整班）

漁船漁業の構造改革に向け，気仙沼地域プロジェクト協議会が策定した改革計画に基づき，建造が進められていた有限会社勝漁水産の省エネ・省力型（改革型）近海まぐろ延縄漁船「第七勝漁丸」がこのたび竣工し，平成22年6月30日（水）に造船元の木戸浦造船株式会社において，竣工式が盛大に執り行われました。

気仙沼で地元の大型船が建造されるのは平成6年以来16年ぶりということもあり，竣工式後一般公開されたコの字岸壁でも，地元の大漁唄い込みによる歓迎をはじめ，多くの市民が集まり，新船の建造を祝いました。

（竣工式の様子）

第七勝漁丸は，平成22年8月10日（火）に初出航しました。今後，ヨシキリザメやメカジキ等を漁獲対象として操業し，改革型漁船による経営改善について3年間の実証事業が行われます。

（初出航の様子）

気仙沼地域における漁船漁業構造改革事業では，現在，もう1隻の漁船が新たに建造中で，平成22年9月に竣工の予定です。

漁船漁業は，燃油の高騰や魚価安等厳しい経営状況にありますが，改革型漁船による実証事業を通じて，儲かる漁業への転換が図られることにより，気仙沼地域全体が活性化されることが大いに期待されています。

【あとがき】

気仙沼魚市場では，カツオの好調な水揚げが続いています。出足の遅れが気を揉ませたのですが，7月下旬から，施網船に続き，一本釣船も続々入港し，カツオの型（大きさ）も段々と良くなってきました。

月に数回，魚市場の様子を見に行くのですが，2階の見学者通路からでも，その眺めに圧倒されます。水揚げは時間との戦い。一刻も早く，水揚げと仕込み（燃料，氷，食料の補給）を終えて，次の漁に向かいたいカツオ船が岸壁にひしめき，魚市場はフル回転。カツオを選別（大きさによる仕分け）する人垣の脇を，フォークリフトやトラックが行き交い，入札の締め切りを告げるベルの音が響き渡ります。

こんな風景を目にする度に，ここが気仙沼の心臓なんだなと思います。水揚げされた魚が，市の内外に送り出され，水産加工，運送，製氷，梱包資材，さらには船のメンテナンス等々，様々な分野を潤し，活気づけていきます。

カツオも，これから脂の乗った戻りガツオのシーズン。豊かな海の恵みに感謝しつつ，旬を味わうとしましょう。